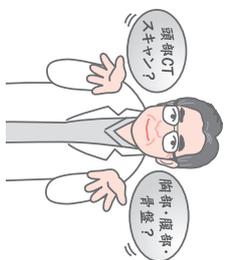


目次概略

第1講義 外傷総論

～バイク事故・意識レベルJCS100, まずどこから診る?～

今日は今からあげる事例で、1つ質問を出します。講義が終わったときにもう一度この事例を出します。そのときに「ああ、さっきの質問、簡単じゃん」って皆さんが思ってくれたら、僕の今日の講義は成功です。



第2講義 多発外傷入門

～3人に1人をさらに救える戦い方, 教えます～

今回は僕の教え子の1人、林 寛之先生にゲストに来てもらって、外傷との戦いを講義してもらいます。ちゃんと処置すれば実は3人に1人は救えるという、とても有意義な内容です。最後に寸劇で実演もしてくれよう。



第3講義 ショックその1

～「これだけでいい」分類と, パターンで攻める出血性・心原性ショック～

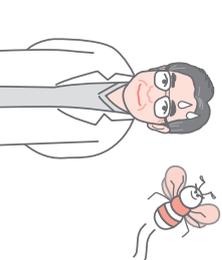
今日の目標は、①ショックということをどう理解すること、②ショックのタイプを理解すること、③それぞれの典型例を理解すること、この3つです。いろいろ手を出さないで、大事なものをからショックリ覚えましょう。



第4講義 ショックその2

～血液量が変わらないショックも とっても大事～

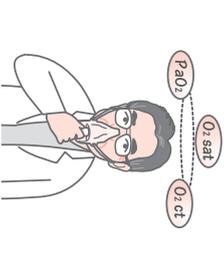
今日お話しするのは、体の中の血液は減っていないけれど血液の分配が変わった、というショックです。なかでもアナフィラキシーショック、VVRは医者になっても重要ですので、知っておいてください。



第5講義 中毒その1

～ハズせない一酸化炭素中毒と, ダズされやすい血中酸素量～

中毒の死亡例はガス中毒が一番高く、なかでも一酸化炭素中毒が高い割合を占めているので、今回とりあげました。学生さんが苦手のPaO₂, O₂ sat, O₂ ctがからんできますし、現場でも間違えやすいので、ぜひ理解してください。



第6講義 中毒 その2

～患者さんへの対応と, 忘れてはしくない中毒を具体的に～

服毒した患者さんへの対処法は?と聞くと、多くの人は胃洗浄って答えるかも知れませんが、僕は現場で働いていてちよっと違う意見をもっているのです。それを少しお話しします。後半は覚えていてほしい中毒をいくつか紹介します。



第7講義 熱中症

～コーラ色の尿に命の危険を感じよう～

今日お話しする熱中症も重要なテーマです。高熱の患者さんを診たとき、発熱で熱が高い人と病的に高体温になっている人は全く別だということを理解して、ちゃんと適切な治療を行える医者になってほしいと思います。



第8講義 低体温・溺水

～治療だけじゃやすすまない低体温と, 助かるチャンス逃さない溺水～

低体温では原因を探索することの重要性を忘れないでください。溺水では、救える患者さんをきちんと蘇生できるよう、ポイントを押さえていただければと思います。



課外授業 災害トリプラーに挑戦!

課外授業は、第2講義でも登場いただいた林 寛之先生によるトリプラー講習です。限られたメンバナー、スベース、医療資器材の中で、助けられる患者さんをおいかにうまく助けるか、災害救急ではその選別が重要です。

